

182 油が尽きて消える燈火と、（強風にあおられて）我とわが身を燃やしながら消える燈火とは異なるのだ。（私の場合には職を全うする前に小人の讒言によって志なかばにして断たれてしまったのだ）。

183 私を陥れた小人たちは、ブンブンうなりながらあちらこちらへ飛び回る青蠅のように宮中に止まっていることだろう。

184 （このような宮中においては）どうして正直に事を行なっていく者が、無事に命を全うすることができようか。

185 また一方で 小人どもは（親鳥のみならず、その）巢をひっくりかえして中の卵まで割り

186 穴の中まで探し出して蟻の子までつぶしてしまふ。（そのように自分だけでなく、わが子孫まで徹底的に抹殺しようとする）

187 （わたしは今）厳しすぎる法によって裁かれ

188 今までのわたしの功績は、石柱を刻むごとく過去のものとなった。

189 忠義を尽くすこと、（あたかも君のために）甲冑のごとくなろうとしたこと（がかえってあだとなったこと）を悔いる。

190 ほこで突かれるよりも酷い厳しい刑罰に嘆く身を悲しむ。

【二十段】

191 （その私は）小さく粗末なあばらや（に、住み）

192 薄暗く暗澹とした（西海の果ての）青海原のほとり（に、立つ）。

193 私の粗末な廬は今の私には十分事足りているし